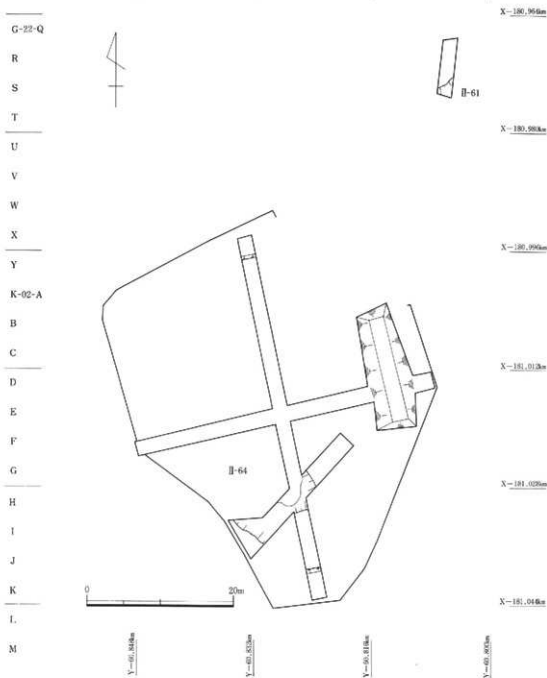


J K L M | N O P Q | R S T U | V W X Y |



第40图 II-1 地区调查区位置图

暗渠内からは遺物は出土しなかった。また、第4層の旧耕作土以下からも遺物は出土しなかった。しかしながら、第3層中から弥生土器、近世、近代の遺物が出土した。よってこれらの遺構の時期については、旧耕作地については近代以前、暗渠については、近代以降と考えられる。



第41図 II-64調査区01-O I 平面図

## 第4章 まとめ

これまで棚原遺跡についての発掘調査結果について概観してきたが、以下若干のまとめを記していきたい。

今回の棚原遺跡発掘調査では、旧石器時代・縄文時代の遺構・遺物の存在を確認することができなかった。しかしながら、本遺跡の東に位置する向井池遺跡から縄文時代の石鏃が出土している。このことは、今後本遺跡周辺から当該期の遺構・遺物を検出する可能性を示すものと思われる。

弥生時代になるとⅠ区・Ⅱ区の丘陵部から中期末の竪穴住居4棟と、狼煙台と思われる土坑などを検出することができた。

今回検出した竪穴住居跡のなかで、Ⅱ-55調査区から検出した01-OD、07-ODについては、その全容を調査することができた。Ⅰ-88調査区から検出した01-OD、02-ODについては、調査面積が小さくその全容を解明できなかった。特に02-ODは、幅約1mほどしか調査できなかったため、竪穴住居跡としかこの報告書中で述べることしかできない。よってここでは、Ⅰ-88調査区から検出した02-ODを除き、現在まで判明していることを記していきたい。

4棟の住居跡は、京上川を挟んだ丘陵の先端部に立地している。標高はⅠ-88調査区で約56m、Ⅱ-55調査区で約50mを測る。すべて円形のプランであり、Ⅱ-55調査区07-ODが直径約5.5mであるが、他は直径約7.5mとほぼ等しい。住居跡からは、土器はほとんど出土しない。しかしながら、Ⅱ-55調査区01-OD、07-ODからは石鏃が出土し、またサヌカイトの碎片が多量に出土していることから、これらの住居跡は石器製作跡と考えられる。

時期的には、Ⅰ-88調査区01-ODや、狼煙台と思われる土坑が、Ⅱ-55調査区01-OD、07-ODより若干古くなるようである。

これらの遺構群は、その立地や遺物の出土状況、狼煙台と思われる遺構が近接していることなどから、高地性集落の範疇に含まれるものと思われる。

泉佐野市域の弥生時代遺跡は第1章でも記したように、三軒屋遺跡など多くの弥生時代の遺跡が存在するが、これらは平野部の中位段丘面の縁辺や沖積段丘面上に立地していた。一方、これらの遺跡群に対応する高地性集落は、これまで位置的にも泉南市域の榎井川左岸の丘陵上の新家オドリ山遺跡などが考えられてきた。

本遺跡で検出した住居跡群は、時期的には新家オドリ山遺跡などとほぼ同時期であり、泉佐野市域における高地性集落としては初めての確認である。棚原遺跡において検出したこの高地性集落は、現在のところ、三軒屋遺跡等との関連が考えられる。しかしながら、今後の調査の進展により、泉佐野市域における高地性集落の確認が進めば、平野部の遺跡との関係なども明確になるとと思われる。

古墳時代については、II-55調査区で前期の土坑、柱穴などを検出している。当該期における泉佐野市域の遺跡は、古墳を除いて弥生時代と同様に平野部に集中しているが、今回丘陵部でも遺構・遺物が存在することを確認することができた。

奈良・平安時代の遺構・遺物は、今回の調査では確認することはできなかった。しかし、当該期の遺跡である上之郷遺跡、母山遺跡は、今回の調査地の近辺に位置している。このことから、今後の調査によっては当該期の遺構が、棚原遺跡で検出される可能性を十分に残している。

中世になると、調査地周辺の地は荘園化され日根荘となる。これに関連すると思われる遺跡として、棚原遺跡の北に位置する机場遺跡や日根野遺跡周辺で、鎌倉・室町時代の溝で区画された屋敷地などを検出している。また、意賀美神社の東側の向井代遺跡では、13世紀の掘立柱建物跡などを、また川原遺跡では12世紀後半の溝などを検出している。また、調査地西方にある向井池の池底から中世の遺物が出土している。

今回の調査では、中世の集落跡は検出できず、耕作跡を確認したにとどまった。現代においても集落は、丘陵を下った所に営まれ、調査地周辺はもっぱら耕作地として機能していた。中世においても、丘陵を下った所に立地する机場遺跡や日根野遺跡から当該期の集落を検出する。このことから、すくなくとも中世には調査地周辺は耕地化され、一方集落は丘陵を下った所に営まれていたと思われる。

そして、その景観は現代までほぼ変わることなくその姿を留め、営々と人々の生活が営まれていたのである。

現在、棚原遺跡周辺では空港連絡道路の工事が進められ、また大規模な圃場整備、河川改修工事も実施されている。これらの工事によって遺跡周辺の景観は一変してしまった。これもまた歴史の一環として捉えるべきものなのであろうか。

# 版 函



A地区全景（西から）



48調査区石垣全景（西から）



7調査区断面（南西から）



43調査区断面（北から）



22調査区調査前全景（南から）



33調査区調査前全景（南から）





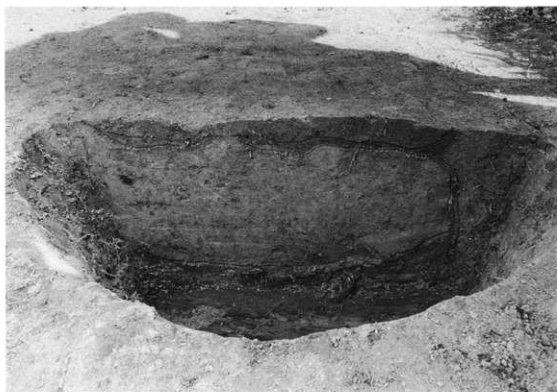
22調査区全景（南から）



22調査区全景（北から）



22調査区31—OW断面（北から）



22調査区32—OW断面（北から）



22調査区34—00全景（西から）



22調査区34—00断面（東から）



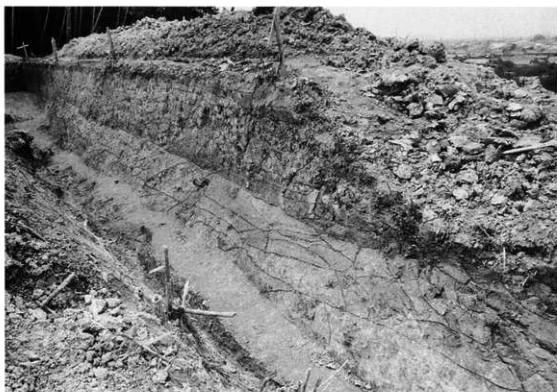
20調査区全景（北西から）



20調査区02—OX（南から）



71調査区断面（西から）



53調査区断面（南から）



尾根西側斜面部全景（南から）



34調査区全景（北西から）



23調査区調査前全景（南から）



23調査区調査前全景（北から）



23調査区断面（北から）

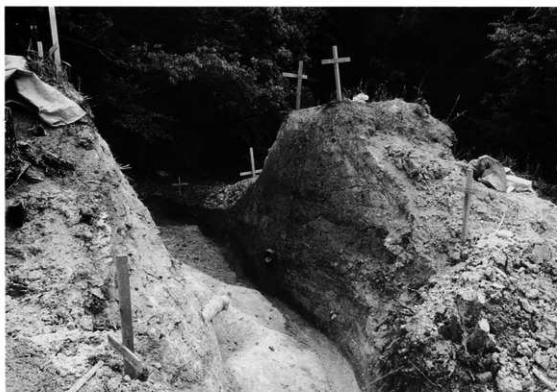


28調査区全景（北から）





57調査区断面（南東から）



70調査区断面（南西から）



69調査区断面（西から）



69調査区「鋼」断面（西から）



76調査区「殿様御殿」と青池堤の関係（西から）



61調査区全景（西から）



69調査区青池2の樋（南から）



69調査区青池2の樋（北から）



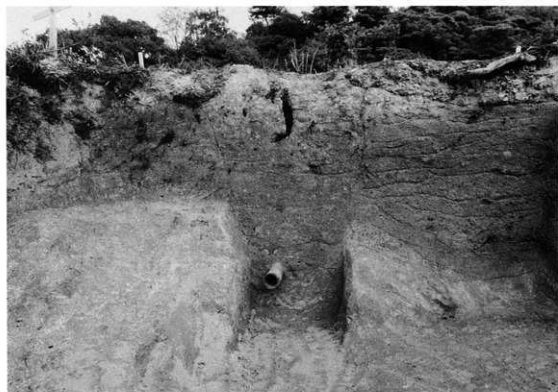
68調査区青池3の樋（東から）



68調査区青池3の樋（南から）



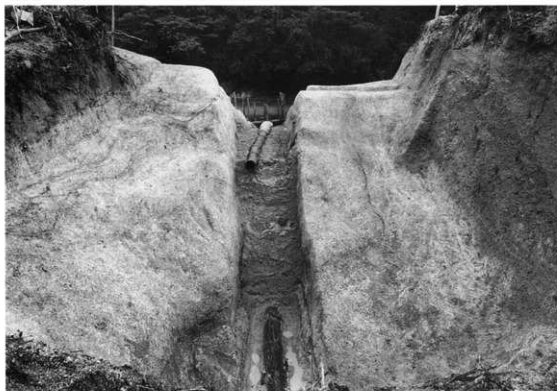
99調査区断面（北から）



99調査区断面（西から）



99調査区皿池1、2の樋（西から）



99調査区皿池1、2の樋（西から）



99調査区全景（西から）



98調査区断面（北から）





100調査区断面（北から）



100調査区掘検出状況（東から）



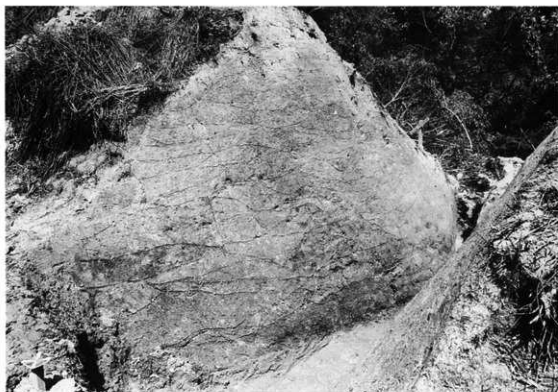
74調査区溜池1全景（北から）



74調査区断面（南から）



77調査区溜池2全景（東から）



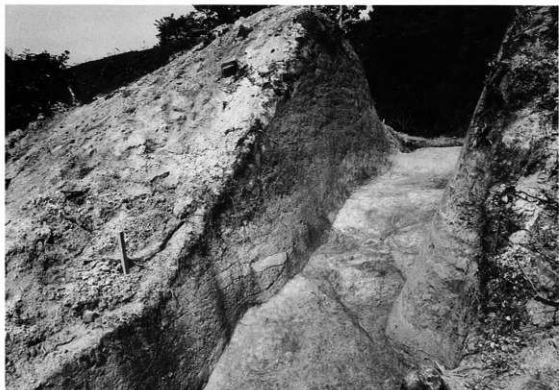
77調査区断面（北東から）



75調査区溜池3 全景 (南から)



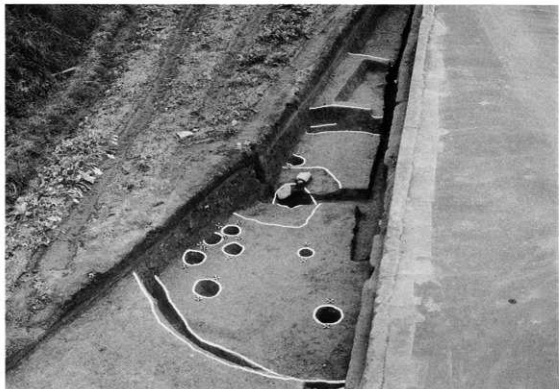
75調査区断面 (東から)



73調査区涵池4 全景（西から）



73調査区断面（東から）



88調査区01、02—OD全景（北から）



88調査区01、02—OD全景（南から）